

# IT21 の会（平成 22 年 10 月）第 147 回議事録

日 時：平成 22 年 10 月 15 日(金) 18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：日本技術士会 葦手第二ビル 5 階会議室

出席者： 10 名

## 配布資料

- ・ 1010-1 製造業等での DITA によるマニュアル作成の新潮流について
- ・ 1010-0 CPD 参加票

## 議事

1. 講演：「製造業等での DITA によるマニュアル作成の新潮流について」

講師：林口 英治 氏

※ DITA (Darwin Information Typing Architecture)

## 概要

製造業を中心に、急激なグローバル化に伴い多種多様化し複雑化するマニュアル作成についての効率化へのソリューションとして、XML 記述によるドキュメント作成管理手法である、「DITA」につきその構成と適用先のご講演を賜る。

(ポイント)

◎製造業のグローバル製品のドキュメント作成・運用時の問題点は、【制作・発信側の主な事項】

・制作が複数部門での縦割り作業となる、また発信媒体合わせた各種出力（メディア印刷、pdf、Web、DVD 等）個別に出力デザインを行う為、非効率なオペレーションとなり、翻訳作業を始め、様々な無駄が生じている。

- ・国別・機種別に膨大な量のドキュメントが必要となり、維持管理配布に要する、時間コストがかかる。(シリーズ x 年数 x バージョン数)
- ・機密文書管理、法令遵守にからむミス防止の徹底が難しい。
- ・承認や運用のルールが煩雑である。【受信・運用側の主な事項】
- ・ドキュメントのバージョン管理に不安。
- ・入手したドキュメントの管理・更新がばらばら。
- ・文書検索に手間。
- ・電子化が十分出来ていない(紙併用)。

◎DITA による解決策は、

○XML 言語をベースとした DITA 標準による構造化を定め、1 度構築後は、再利用可能な情報として作成し、管理手法と共に展開する。ワンソース-マルチユースによる、課題解決を目指す。 ○ソースコードの主な構造種別として、

- ・ Topics : 情報モジュールの単位で、ドキュメント 2?3 ページのコンテンツ相当部位。さらに、概要・詳細内容など情報の単位で細分化登録する。
- ・ Map : Topic 情報の収集と、組み合わせを定義して出力形式を構築する 部位。
- ・ DITA Open Toolkit : 紙出力、DVD、Web など提出フォーマットに合わせる変換ツール。(サンプルコードの具体的記述例は、下記 URL から資料取得ください)

<http://dita-jp.org/?cat=13>

※特に、初期の設計段階での Map 部の構成検討が重要となる。

## ◎DITA の活用事例

IBM では、自社製品の全世界の製品マニュアルの作成（納期）につき、費用削減、品質向上を狙い構築を図った。その後様々な導入背景の他社事例・実績が積みあがっている。主なものを示す。

- ・ 情報の品質改善
- ・ 翻訳コストの削減
- ・ 製品間での再利用推進

大手自動車メーカーでは、欧州ブランチからの要求でDITA化が検討された。製造業以外にも、大学教育分野で授業のカリキュラムデータへの適用事例がある。そのほか、厳密な管理が求められる、IBMの半導体部門の半導体デザインマニュアル作成システムにも適用された。

## ◎DITA の今と、今後の展開

米国IBMが2004年にDITAを米国標準団体であるOASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards)に寄贈したことから、DITAがグローバルオープン標準となり米国を中心に急激に普及している。

日本では、DITAを国内に普及促進するため日本IBMが発起人となって2009年

3月にDCJ(DITAコンソシアムジャパン)が設立された。 <http://dita-jp.org/>

今日、DCJは多くの関係ベンダー企業が協力し国内でのDITA普及活動を展開している。講演者の林口氏は、[DITA普及マーケティング部会]の議長として、普及活動に努められている。

## ◎主な質疑

Q1) Topics のソースは主に誰が作るのか？

⇒ 技術者が制作するケース多い

Q2) 構成定義後の変更への対応柔軟性は？

⇒ 定義時点での「ドキュメント構造化」は本活動の肝となる。これは、他の手法でも同等と思う。営業的に、ドキュメント仕上がりディテールにこだわると、対応困難なケースある。しかし、DITA に乗れば、文書構造のノウハウ含めた構造となり、その後の展開利便性が挙げられる。また、各種出力メディアへの対応柔軟性も良い。

Q3) DITA には構造化時点のノウハウは含まれているのか？

⇒ 構造化設計手法自体は、DITA 自体には含まれていない。ただし DITA に乗せて構造化図ると、再利用性や翻訳などのメリットが出てくる。

Q4) Topics の粒の細かさや、グルーピングサイズの決め事はあるのか？

⇒ 自由である。対象とするマニュアルで異なる。普通は 章・節に次ぐレベルでまとめる。トピックスの種別で所定のルールで記述いただく。

Q5) Topics の定義内容は？

⇒ 標準のタグセットが用意されている。また、さらに会社独自のタグ定義も可能。これを用いて、用途に合わせた出力部位選択が可能。

Q6) コンテンツ管理方法は？

⇒ これは、DITA とは別。一般的にはオラクルなどのツールと併用して行う (CMS 等)

Q7) 現況がまったく異なるマニュアル群の時にはどのようなプロセスで制作するか？

⇒ マニュアル間を分析して、共通化図れる部位を見抜いて構造化を図る。またDITA化すると、分厚いマニュアルの必要部位のみを抜き出し持ち出せるなどのメリットも出せる。

## 2. 役員からの報告・承認依頼・募集他

### (1) 年会費納入状況（田中氏）

・入金状況（2010/10.15現在）

納入済：151名、前期入金済：2名、初年度入会金免除者：3名、未納入：1名（フォロー中）

・送金方法は、郵貯銀行からの送金：82名、他行からの送金：52名、郵便局電信振替：17名

### (2) 合宿、レクの開催判断（横井氏欠席のため、山下氏代行議決）

・本件担当の川畑副会長より連絡有り。

・本日まで委員立候補求めていたが、立候補無き為、本年度は中止とする。

### (3) 12月例会の開催概要（山下氏）

・12月11日 土曜日 13～17時 で開催とした。

・廣吉氏と寺崎氏 両名に講演を依頼済み。

・臨時総会を兼ね、会則・細則の改定の承認採決を予定。

・開催場所確保が未了。別途連絡とする。

(4) WGメンバー・移行後運用体制の発表、WG検討現状報告(山下氏)

- ・ITインフラの見直しをWGで計画。10月31日に発足会開催を計画
- ・WGメンバー(含むML管理委員、HP委員)を中心に実施を予定。
- ・WGメンバー外でも、興味ある方は、ぜひ参加してください。

(5) 議事録担当マニュアル変更の承認(山下氏)

- ・変更最終案(下記メール参照ください)

[IT21:20664] Re: 議事録担当マニュアル変更(最終案)の提案

- ・今の所、特に要望は出ていないので本日採決としたい。  
→ 出席者全員一致で承認された。

(6) 会則、細則、運用見直しの改訂案進捗状況説明、議論(田中氏)

- ・当初の予定通り、会則、細則について、現行の運用とずれてしまっているもの、内容が分かりにくいものを、まず整理していきます。
- ・会則、細則を現行の運用から変えるという議論は、観点を整理して、それ専用のスレッドを起こして議論を進めていくこととします。
- ・12月の例会(臨時総会、12/11実施予定)に、上記の前者を中心に、会則、細則の改訂案の審議・承認をいただく予定で、今後も進めていきます。
- ・引き続き、SNS等での見直し検討を進めていきますので、会員各位の協力をお願いします。

(7) 初参加の方の自己紹介

- ・今回は該当者無し

(8) その他

- ・11月の例会予定：2010年11月5日(金)18:30～20:30 発表者：中原 俊政 氏
- ・9月の全国大会へのIT21からの出席者に、報告を依頼する。  
(副会長フォロー中)
- ・ML障害の件（加納氏）

本MLへの投稿がML外部に漏れや、ロストの発生がしている模様である。調査中であるが、当面は重要な内容の投稿を差し控える様にして欲しい。問題点は、メールヘッダーが改変されている模様で通常考えられない。運用会社（サイバートレーディング社）に調査を依頼中。

以上（記載者：加藤直樹）